

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム なごみや
(ユニット名)	1階ユニット
所在地 (県・市町村名)	刈谷市 井ヶ谷町 久伝原
記入者名 (管理者)	蓑島 朝子 ユニットリーダー
記入日	平成 20年 2月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域の中でその人らしく生活していくためにどのような取り組みが必要か思案を作る。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	さらに理念の共有、実践に向け、朝の申し送り時に唱和するなど意識づけしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	3ヶ月に1回、ホームの活動等を掲載した機関紙を発刊し関連事業所に配布していくことを検討中。地域の人々との交流の場へ積極的に参加していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ホームの行事など近隣のお宅に声をかけるようにしていきたい。自治区の清掃活動等に参加する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も自治区の行事や老人会の催しなど参加する機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のニーズの把握不足で、具体的に取り組んでいない。	○	「子ども110番の家」に申請中である。地域運営推進会議を活用し、更には地域との交流の中からニーズをリサーチしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回は外部評価の意見を参考に改善の努力を行った。具体的には、外部評価で指摘された課題を実践者研修での職場実習のテーマにし、ホーム全体で取り組んだ。今回は職員全員ではないものの外部評価検討会を行い、外部評価の意義を意識づけた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。メンバーに昼食を提供し一緒に昼食を楽しみ、なごみやの雰囲気を見ていただいている。運営会議での意見は、検討しサービスの向上につなげている。	○	メンバーが固定されているので、多彩な人に声かけしていきたい。具体的には、なごみや新聞に地域運営推進会議の様子を記事にし記載する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類などを入居者様と一緒に直接市役所へ持って行き、手渡しするように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	知識として知っており、話し合いもされているが、実際に活用したことがない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を学ぶ機会が設けられていない。無理な介護にならないように常に職員間でフォローしあい、防止するように心がけている。	○	研修、勉強会の機会を検討中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ理解しやすいように説明を行っている。随時質問に答え、納得された上で入居していただくように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があれば、業務日誌の申し送り欄に記載し、朝礼やユニット会議で検討する。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、健康状態や行事、日常の様子を家族へ伝えるために手紙を出している。特変があった場合はその都度電話で連絡をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から苦情等があった場合はクレームノートに記載して、どのように対応したか明確し、その内容を申し送り等で伝える。さらに業務の変更が必要であれば、会議で議題として取り上げ検討し実施する。また、意見を聞くためのご意見箱を玄関に設置してある。	○ ご意見箱があることが知られていないのでなごみや新聞を利用し家族へアピールしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ユニット会議を行っている。欠席する職員は意見欄に伝えたいことを記入する。入居者様への対応や業務は会議で話し合いの上決定される。月に1回、当社の次長、ホーム長、1・2階ユニットリーダー、ケアマネで運営会議を実施している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事がある日は、多めの人員配置で対応している。状況変化や要望がある場合は随時話し合い調整している。例えば、体験入居や新規入居者様に対しきめ細かな対応が望まれる時などは、職員間で連携し調整している。	○ 曜日によって、出勤者数にばらつきがあるため微調整が必要である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動の場合は、次の担当職員に申し送りを確実にを行うように勤めている。家族には、担当が替わることを手紙で伝えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画はないが、新人職員に研修記録を記入することを義務付けており、先輩職員からコメントがもらえるようになっている。職員の希望により社外研修の機会も設けている。	○	さらに社内外の研修を受ける機会を増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	刈谷市内のグループホームと交流会を行っている。他グループホームの家族会に出席させていただいた。	○	他グループホームへの実習も検討中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	うつ病の勉強会を行い、基礎知識と理解を学びあった。ストレス耐性について話し合う機会を設けた。	○	2/1に「メンタルヘルスケア支援セミナー」受講、3/6に「うつ病」の研修を受ける予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員対象に年2回、目標管理カードを基に個別面談を実施している。	○	パート職員にも実施していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期面接で傾聴するように心がけている。本人様の発話がない場合もあるが、その様子を面接記録に残し職員全体の共通情報としている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や面接等で傾聴するように努めご家族とのコミュニケーションを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずしっかりとお話しを伺い、ご本人様と家族のニーズにあった施設を紹介し選択できるように支援している。	○	利用できる社会資源の情報を増やして行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をしていただき、どのような支援が必要か検討させていただく。センター方式シートを利用(ご家族にも記入していただきたく)し、なじみの生活の継続に努めている。	○	徐々に慣れていただくため短期入所を検討中。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、会話を大切にしており、それで学ぶこともある。共同作業をしているという気持ちを互いに持つように努めている。	○	入居者様の状態によっては、一方の立場に偏ってしまう場合もある。すべての入居者になごみやでの役割を持っていただけるように支援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会に参加してくださるご家族が少ないように感じられるが、それぞれのご家族に事情があると理解している。何かあるときは協力し合える関係である。	○	家族が参加しやすい行事を企案していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、家族と入居者様がより良い関係を築いていけるように橋渡しの役割を担うように務めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会はあっても知人や友人の面会があまりないように感じられる。馴染みの方が来所された場合は、ゆっくりお話ししていただけるように留意している。	○	さらに馴染みの場所をリサーチし介護計画等に盛り込んで生きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク、食事、おやつ等で入居者様同士が、談話しやすい場を作り、馴染みの関係を形成しやすいように工夫している。相性も考慮したユニット配置にしている。	○	グループ回想法を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院や他施設へ移られた方に面会へ行きアフターフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接の時に可能な限り聴くように努めている。入居されてからは、普段の会話から情報を収集し、センター方式シートに記入して職員全員で情報を共有し、ケアに活かすように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを通じ、本人のバックグラウンドの情報収集に努めている。面接時に生活歴を家族にも聞いている。シートを熟読するよう努め不明なことは家族に尋ねるようにしている。	○	情報が乏しい入居者様がいるため、家族や在宅のケアマネージャーとの連携を強化していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝と入浴前にバイタルチェックを行い健康状態の把握に努めている。その他変化が合った場合もバイタルチェックを行い、排泄チェック表や食事量も確認する。申し送りを確実にを行い職員同士で早く情報を伝えることができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報収集したセンター方式シートを基にケアプランを作成している。足りない情報は、家族が来所された時に収集している。必要に応じサービス担当者会議を行っている。	○	サービス担当者会議の機会を増やしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを行っている。修正が必要な場合は、話し合い取り入れる。さらに家族に説明し要望を取り入れ作成し直す。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変や留意点があれば、業務日誌に記載し申し送りをしている。日中、夜間の様子などを個別の介護記録(個人ファイル)に記入し、スタッフ間で情報を共有している。それを介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えば、面会時間や外出時間に制限を設けておらず、自由に出入りしていただいている。食費も食べた分だけしか頂いていない。その方の状況にあわせた支援を実施している。家族の要望にも極力応えるようにしている。		
まいtt				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	愛教大付属高校のボランティア、中学生の職場体験学習を受け入れている。刈谷北分署に避難訓練で使う水消火器、防火ビデオを借りに行った。	○	ボランティア情報を収集していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様のニーズにより支援している。連絡が不十分であるかもしれない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	電話による情報交換はしているが、あまり交流がない。	○	地域包括支援センターに地域運営推進会議への参加を呼びかけていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により連携医による月2回の往診を利用、もしくは家族による定期受診をされている入居者もいる。一人ひとりの要望にあった支援をしている。	○	入居者様の状態によって、家人に受診の同行を依頼し直接医師に説明していただくこともある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	当社訪問看護ステーションの看護師との相談関係を強化している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	ホーム長が窓口となり情報交換に努めている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	なごみやとして「できること、できないこと」を検討中である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守るように心がけ声かけしている。例えば、トイレはカーテンで仕切られプライバシーに配慮している。希望により奥の個室トイレも利用していただいている。個人情報の扱いは慎重に行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	無理強いはないで、ゆっくりその人の話を聴き、表情からも思いを察し、納得して生活できるように心がけている。また入居者様の理解しやすい言葉を使っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課と時間は決まっているが、その人なりのペースを大切に、あせらせないように努めている。散歩は、希望を募り支援している。	○ 生活史の把握など家族とさらに情報交換していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常時ではないが、行事の時に化粧をし、ドレスや装飾品を身につけ、マニキュアもし気分を変えて楽しんでいる。希望により訪問理美容を利用する入居者様と家族と美容院へ行く入居者がいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切など職員と一緒にしている。準備や片付けも限られた入居者様のみが行っているため、残存能力を活かしきれないところもあるが、その人にあつたできることを支援し、行っていただいている。	○ パンの要望も週1、2回、応えている。外食も時々ではあるが行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近隣の喫茶店へ出かけたり町内の飲食店へ出かけている。お酒は常時ではないが、行事によって飲んでいただいている。飲みたい飲み物をそれぞれに尋ねるようにしている。	○ ひとり一人の状況に合わせた対応ができるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表から排泄パターンを確認し、できるだけトイレでの排泄を心がけている。失禁の回数が多くなった場合、定時の声かけをし、表情を見ながら対応するように努めている。	○	排泄委員が立ち上げてあり、全員の排泄パターンを把握できるように取り組んでいきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別入浴での対応。気の合った入居者様同士での入浴もでき、楽しんで入浴できるように支援している。入浴剤の使用やゆず風呂、菖蒲湯など気分をかえて入浴できるように心がけている。その時その人の状態にあわせて無理がないように入浴していただいている。	○	温泉などへの外出も行っており、継続して支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休みたい時に自由に居室に戻り休めるよう支援している。またご自身で居室内から施錠できるように支援しており、安心の空間が保てている。希望があれば持込の寝具を利用いただいている。またベットを使用せず床にすのこを置き布団で寝ていただいている入居者様もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のレクリエーションで身体を使った遊びや歌など取り入れている。誕生日外出や外食、足湯など楽しみと気晴らしの支援をしている。ラジオ体操は毎日実施している。	○	月2回音楽療法の専門の先生に来て頂いている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持し、おやつなど購入している入居者様もみえるが、ほとんどの入居者様は所持金をもってみえない。またご自身でお金を使う機会がない。入居者様の状態によって、持っているだけで安心される方もいる。	○	ほとんどの方が金銭は職員管理なので、機会があれば実施していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は声かけにより散歩に出かけている。週2回の買物、ドライブ、喫茶店や通院などを行っている。	○	ひとり一人の希望によつての外出ができるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事では、普段いけない所への外出支援を行っている。個別では、日常の会話の中から行きたいところを聞き誕生日外出などで行っている。	○	家族とともに外出の機会を持たない入居者様の支援を行ってきたい。月1回の外出レクを目標にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を出している。入居者様の希望があればホームの電話から話ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を出し居室や居間、どこでも自由に談話できるように工夫している。笑顔で対応し、気軽に入ってもらえるようにしている。	○	行事の時のアルバムを充実させ家族や知人などの訪問時に見て頂いている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拒否される入居者様に決して無理強いしない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要になる状況があれば、しないようにする工夫をしている。職員によっては「～具体的な行為」を理解できていないことも考えられる。	○	拘束防止委員会が立ち上げてあるが、取り組みが不十分なため必要に応じ拘束防止を啓発していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はできるだけ行わないが、入居者様の状態によっては一時的に施錠を行うこともある。20時から翌朝7時までは防犯上の理由で玄関と居間と居室の窓の施錠を行っている。居室は、ご本人様がかける以外は施錠していない。	○	全職員に徹底していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、出勤職員全員で連携し対応している。夜間は3時間ごとに巡視し、体調不良者などいるときなどは1時間ごとに巡視している。入居者の状態にあわせ、トイレへ行かれたときは付き添う。その他移動時声かけするようにしている。居室に入室する時は声掛けとノックしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	例えば、料理で包丁を使うときなどは横に付き添い、見守りを行っている。安全に使用できるよう常時見守り、対応している。職員間で話し合っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとを活用し情報共有に心がけている。職員は、防火訓練、研修など知識の向上に努めている。常に目配りを忘れず、ゴミ箱に捨てるものにも注意している。防火ビデオを見ていただき入居者様にも意識付けている。	○	防災センターでも研修を行った。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会社や地域の講習会や避難訓練を行い事故発生時に備えている。ほぼ全員が救命講習を受けている。	○	もっと具体的な訓練もできると良い。応急普及員講習を職員の代表が受講していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を年2回行っている。職員の緊急連絡網がある。どのように地域と連携していくかは今後の課題。	○	夜間は職員が少なく地域の人々の協力を得られるような取り組みを考えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	受診したり、体調の変化など毎月のお手紙で家族に連絡している。QOL向上のため身体拘束を行わない事を家族に説明している。そのためリスクが予測される行動など家族に伝えるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝と入浴前にバイタルチェックを行い、体調の変化に注意している。異変がある場合、記録に残し申し送り、速やかにかかりつけ医へ受診する。家族には、その都度連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出されている薬の処方箋を読み、目的や副作用など理解している。ひとり一人の薬袋に薬剤名と用途が記載されており、夜勤者がセットする。早番が中身を確認し、投薬前に再び確認する。常服薬の変更、臨時薬が処方された時は、体調の変化など様子観察し、申し送りしている。	○	職員全員が情報を共有する。副作用までは把握できていないので把握するように努めたい。定期的な服薬については理解しても臨時薬については説明が必要。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、ヤクルトやヨーグルトの摂取、水分量のチェック、散歩などを行っている。その人にあった自然排便を促すように努めている。	○	できる限り排便誘導薬を使わずに排便できるようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけにより口腔ケアを実施し、夜は入れ歯を外し職員が管理している。週に2回消毒している。拒否があればうがいのみしていただいている。歯科衛生士に磨き残し箇所を教えてもらっている。	○	全員が口腔ケアできれば良いが、拒否の強い入居者さまへの対応をどのようにするか取り組みたい。歯科衛生士の口腔ケア指導を受ける予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態にあわせた食事形体で提供できるように努めている。食事は毎食確認しバイタルチェック表に記録している。摂取量が少なくなってきた入居者はセンター方式シートを使い摂取量や内容を確認し、食べやすいように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は、出勤などにうがい手洗いを実行している。次亜鉛酸ナトリウムを使用して手すり床など清掃に力を入れている。感染症予防のマニュアルがある。流行している感染症の情報について書面で伝達している。マスクを配布しているので受診介助の時に使用している。	○	感染症予防の基本であるうがい手洗いを徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン点検表を活用し定期的な確認と管理を行っている。定期的な消毒をし調理器具の清潔に配慮している。食器乾燥機を使用している。食材は業者に発注し、鮮度を考慮しほぼ毎日配達されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にあるホワイトボードには、なごみや新聞が啓示してある。ガラスドアに行事や日常のひとこまを写した写真を飾り工夫している。犬を飼っており、近所の人たちが立ち寄ってくれる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは毎朝清掃、またそのつど汚染していないか確認している。消臭スプレーが置いてあり、排便後などに気を配っている。共有の空間には入居者様の外出時や行事の写真を貼り生活観や季節感を出している。まぶしすぎないように常時カーテンで明るさを調節している。毎日掃除がきちんと行われている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を工夫したり、畳スペースの前にテーブルと椅子を置き、ひとりになれるスペースを作っている。玄関の内と外にベンチを置き癒しの空間を工夫している。それぞれに落ち着く場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していたものや仏壇を持ち込んでいたり、家族の写真を飾ったりと自由に工夫している。	○	本人にとって使い慣れた馴染みの物を活かせるよう家族にも協力をお願いしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除のときだけではなく、こまめに換気している。居間には温度・湿度計が設置してあり、室温や湿度の確認をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりが設置されている。入居者様によっては、居室内にも手すりが設置してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアにそれぞれの名前が貼ってある。トイレも表示してある。さらにはトイレの場所がわかりにくい方のために矢印で示してある。できないことをさりげなくフォローするように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のベンチで10時と3時の喫茶を楽しんだり、駐車場では夏祭りやバーベキューなど様々な行事で利用している。小さな畑があり、収穫された野菜を入居者様は、楽しみにされている。	○	なごみやの駐車場で行う行事には近所の方が気軽に参加して頂けるように声かけしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

センター方式シートを使用、ケアプランの作成に活用し、入居者本位のケアに努めている。回想法を行いQOLの向上を目指している。職員は専門的知識と技術を持った良き隣人として入居者様の支援を行っている。



